

時間外投げ込み

りんご生産情報号外
(結実確保について)

令和6年5月1日発表
青森県「農林水産力」強化本部

**マメコバチ少ない！
人工授粉で結実確保に全力を!!
次年産貯蔵花粉の確保を行う!!!**

I 概要

ふじの満開日は黒石（りんご研究所）で平年より11日早い5月1日であった。マメコバチが少ない園地が多いので、結実確保のため、積極的に人工授粉を行う。次年産の貯蔵花粉の確保に向け、低温でも発芽可能な品種の花粉を採取する。

報道機関用提供資料	
担当課	りんご果樹課
担当者	生産振興グループ GM 小笠原 宜弘
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報道監	農林水産部 次長 栗林 豊 内線 4967

II 生育

(1) 満開日（5月1日現在）

ふじの満開日は黒石（りんご研究所）で平年より11日早い5月1日であった。
(月. 日)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	王 林	ふ じ
黒 石 (りんご研)	本 年	5. 1	4. 29	4. 29	5. 1
	平 年	5. 12	5. 11	5. 11	5. 12
	前 年	5. 2	4. 30	4. 29	5. 1
五 戸 (県南果樹部)	本 年	—	.	4. 30	—
	平 年	5. 14	5. 13	5. 11	5. 13
	前 年	5. 2	5. 1	4. 29	5. 1

注1) 満開日：頂芽花の70～80%開花したとき

2) 平年値：2001～2020年（20年間）

III 作業の重点

(1) 結実確保

マメコバチが少ない園地が多い。

そのため、ふじの単植園や授粉樹の少ない園地、開花量が少ない園地では、積極的に人工授粉を行い、結実確保に努める。ただし、中国産花粉や来歴不明の花粉は使用しない。

貯蔵花粉がない場合は、側花やえき芽花の花粉を利用する。

めしべの受精の能力は、開花後4～5日間であるので、降雨で葯が褐変した花でも授粉する。長く降雨が続く場合は、雨天でも授粉を行う。

品種間の交雑和合性

花粉 めしべ	シナノゴールド	ぐんま名月	きおう	シナノスイート	ふじ、早生ふじ	王林	トキ	金星	はるか	未希ライフ	つがる	紅玉	千雪
シナノゴールド	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ぐんま名月													
きおう	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
シナノスイート													
ふじ、早生ふじ	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ジョナゴールド	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
王林	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
トキ													
金星	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
はるか													
未希ライフ	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
つがる													
紅玉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
千雪													

注1) 交雑和合性と判定されたものを○、不和合性と判定したものを×とした。

2) ジョナゴールドは三倍体のため花粉は利用できない。

(2) 摘花管理

マメコバチの数の不足などで結実が心配される場合、摘花作業はえき芽花だけにとどめる。

(3) マメコバチの管理

マメコバチの増殖を図るため、適切な飼養管理に努める。

ア 防鳥網の設置と土取り場の管理

マメコバチの飼養環境を整えるため、防鳥網を設置する。土取り場の土が乾燥したら、穴に水を入れて湿らせる。

イ 農薬の散布

訪花昆虫保護のため、「落花直後」はIGR剤、BT剤及びバロックフロアブル以外の殺虫剤を使用しない。農薬を散布する場合、巣筒に直接薬液がかからないように、巣箱の近くに散布する間、一時的に巣箱を被覆する。

ウ 巣筒の更新

巣筒を何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、3～5年に一度は巣筒を更新する。

古い巣箱は、次の手順で積極的に更新する。

- ① 古い巣箱に並べて新しい巣箱を設置する。
- ② 古い巣箱の前面を黒いポリ袋等で覆い、マメコバチが通れるだけの小穴を2～3か所あける。
- ③ 落花直後頃に古い巣箱を撤去し、処分する。

(4) 次年産向け貯蔵花粉の確保

次年の人工授粉に備え、なるべく低温でも発芽可能な品種の花粉を採取し、密閉できる容器に乾燥剤とともに入れ、冷蔵庫で保管する。

低温でも花粉が発芽可能な品種

花粉発芽可能温度	品種
10℃	シナノゴールド、金星、はるか、ぐんま名月
15℃	トキ、きおう、シナノスイート、つがる、紅玉

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近

隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！ 》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《 モモシンクイガ等防除のため、交信攪乱剤の積極的な利用を！ 》

令和6年りんご病害虫防除暦の基準薬剤に交信攪乱剤（コンフューザーR）が採用されました。

- ①リンゴコカクモンハマキにおいて殺虫剤の効果が低下していること
- ②農薬の再評価制度に伴い、使用可能な殺虫剤が減少しつつあること
- ③高温下では害虫の発育スピードが速まるため、薬剤防除を主体とした防除ではシンクイムシ類の被害抑制が困難であること

などの理由により、防除体系が変更となります。ハマキムシ類やシンクイムシ類など複数の害虫への効果が期待できますので、積極的に自園地へ交信攪乱剤（コンフューザーR）を導入してください。

《 青森県総合防除計画 》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講じることです。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象として、りんご「モモシンクイガ」を設定しているので、適切な防除に努めましょう。

※県は、モモシンクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は、30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシンクイガ」の遵守事項（一部要約）

（1）予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信攪乱剤の設置や袋かけを行う

（2）判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う
詳しくはこちらをご覧ください。

・青森県総合防除計画 (<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140>)

